

飛島クリーンアップ作戦 20 年
活動報告書
【概要版】



2021(令和 3) 年 11 月

飛島クリーンアップ作戦の経緯と成果について

酒田市の沖合に浮ぶ山形県唯一の有人離島・飛島の西海岸の一部では、1.5メートル余りに積み重なった漁網類に雑多のプラスチックごみが混ざり、歩くこともままならなかった。1996年「日本の渚百選」に荒崎海岸が選定され、訪れた観光客からも苦言が出される中、島民らは肅々とごみ拾いを続けていたが、もはや島民だけの手に負える状態ではなかった。島民からの度重なる漂着ごみへの対処の要望を受け、山形県及び酒田市が主催する「飛島クリーンアップ作戦」が2001(平成13)年に始まった。

翌年からはNPO法人が事務局を担い、多様な主体で構成した実行委員会方式で実施している。毎回、県内外からのボランティアを公募し、参加費を徴収して200名余りの態勢で漂着ごみの回収活動を継続してきた。2020(令和2)年は残念ながらコロナ禍で規模を縮小しての延期判断をしたが、台風の荒天で中止となってしまった。続く2021年も実行委員会関係者のみによる少人数による活動にとどまった。

これまでの活動では、大きな人的な傷害事故などを生じることなく実施してきたが、毎回のように運用上の新たな課題が生じた。それらの改善を次の活動に工夫して取り込んでいる。

また、実施経費を賄うため、第5回より各種助成金を確保、第7回からは民放テレビ局のチャリティ番組からの資材購入費や渡航費等の支援を受けている。飛島における20年の取り組みの成果は、一時とはいえ海岸の一部を裸足で歩ける状態にまで改善するなど、現場で見ることができる。一方、わが国の海洋プラスチックごみ問題への対応を後押しする法律の制定や他地域へのノウハウの移転など、地域を越えた成果も生まれた。

2009年に超党派による議員立法として「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」が制定された。その3年前に与党政務調査会に特別委員会が設置されたが、関係者への問題説明に使われたのが長崎県対馬市と山形県飛島の現状写真だった。同法には、飛島クリーンアップ作戦で培われた多様な主体による協働の重要性が盛り込まれている。

2008年には隣県の新潟県にある粟島において第1回粟島クリーンアップ作戦が実施された。この活動には、島外参加者の募集、参加費負担、参加マニュアル、運営方法など飛島クリーンアップ作戦の全てのノウハウが提供されている。また、NHK番組の「ご近所の底力」では、漂着ごみ問題に苦慮する山口県の海岸地域へのノウハウ提供が取り上げられた。両活動とも飛島同様に継続されている。

2021年、飛島クリーンアップ作戦の始動から20年が経過したことを機に、まずは活動の概要をまとめた本冊子を作成し、海洋プラスチックごみ問題に取り組む県内外の方々へ周知することにした。尚、より詳細な内容を取りまとめた冊子の発行も実行委員会において検討している。

2021(令和3)年11月

第21回飛島クリーンアップ作戦実行委員会

実行委員会関係者の声 飛島クリーンアップ作戦 20 回に寄せて

私は、平成 13（2001）年の第 1 回の飛島クリーンアップ作戦に企画から加わった 1 人です。当時は、県と酒田市、それに山形県産業廃棄物協会（現山形県産業資源循環協会）の御協力を得ながら、負担金無しで事業をスタートさせました。自然観察会の企画をしたり、落選した方にお詫びのハガキを送ったりドタバタで準備したことを憶えています。

当時の田下（たのしり）・八幡崎（はちまんざき）海岸は、一面、漂着ごみに覆われていて、ごみの上で作業するような感じでした。これが本当に片付くのか、当時は終わりの見えない作業のように思えました。

平成 14（2002）年からは実行委員会形式での開催となり、20 年間継続されてきました。今年、久しぶりに飛島西海岸を訪れ、田下海岸がきれいになり清掃場所が荒崎海岸になった説明を受け、「継続は力なり」ということを実感したところです。

今後ともこの取組みが継続し、自然豊かな飛島海岸となることを願っています。

庄内総合支庁環境課長 笹渕 健市

第 1 回の前年（平成 12（2000）年）の飛島西海岸のとある磯場。鮮明に私の記憶に残っていることは、磯の香りと生ゴミが腐り混じり合ったような強烈な悪臭。そして、日に焼けて白みがかった流木とウキに緑がかった漁網が絡まり、ペットボトルやプラスチック漁具がミルフィーユのように堆積し、見えるべき砂は全く確認できなかった。

第 1 回飛島クリーンアップ作戦では、このような状況に果敢に挑むボランティアの皆さんを、島民のお母さんたちは、手作りの「おにぎりとアラメの煮付け」弁当で労ってくださった。多くの島民の皆さんがこの作戦に参加されたことが共感を呼び、毎年参加希望者が溢れ、参加費を払ってボランティア活動をするというジオパークの理念に沿った希な活動へと繋がっている。島民の皆様のご支援と寛容さに心から感謝したい。

酒田市地域創生部長 佐々木 好信

飛島クリーンアップ作戦 20 周年をお祝い申し上げます。公益大開学の平成 13（2001）年にはじめて学生たちと飛島に渡り、大自然の素晴らしさと島びとの自然と共に生きる逞しさと温かさ、そして膨大な海ごみに出会いました。「美しい浜を甦えらせ、島を元気にするお手伝いをしたい」との学生達の想いは、飛島クリーンアップ作戦を通じて実現しました。さらには、全国の大学生が主体となる IVUSA「いぐべ、飛島。」、そして公益大・県内学生主体の SCOP の活動へとつながることで、飛島・庄内浜が全国の学生の公益活動のフィールドとなり、多くの若者の実践の学びと感動の場となっていることはうれしい限りです。

また、本活動は多様な主体の共創によるクリーンアップのモデル事例として知られ、県内外の活動、海岸漂着物処理推進法など国の制度にも大きな影響を及ぼし、海外に向けても発信してきました。どんな困難にも、はじめての第一歩を踏み出す重要性を思い起こすとともに、今後も全国、世界に発信し続け、新しい時代の要請に応える活動として発展、継続することを願っています。

東北公益文科大学 教授 呉 尚浩

クリーンアップ事業として、飛島西海岸の漂着ゴミを綺麗にする事、20 年目をお迎えした事は私達、島民にとっても感謝の念に堪えません。20 年間、企画し実行してきた関係者の方々に、心よりご苦労様でした。

ここ 1、2 年は、新型コロナにて参加者が限定されて、思い通りにならないのが現状ですが、20 年間、拾い集めたごみの山はどんなだろうかと想像すると、出羽富士鳥海の高さに匹敵するのではと思うと大変な偉業に感じられます。

昔、唱歌で島崎藤村の詩に“流れ寄る椰子の実一つ”という歌を歌った私たちの時代はロマンに感じられるのですが、今では、世界的な問題であり、海を泳ぐ魚、動物、海鳥たちの影響には大きな環境問題として、取り上げられています。

この区切りの年にあたり、私達はもう一度、見つめ合う事、考える事にし、記念冊子の発行に祝意をのべると共に実行委員の皆様には今後共に宜しくをお願いを致します。

飛島コミュニティ振興会 会長 本間 俊明

飛島クリーンアップ作戦の開催 20 周年、誠にめでとうございます。弊社も当初より活動に携わらせていただき感謝申し上げます。

最初はどちらかというとき県や市が主導していたと記憶していますが、現在では NPO 等の民間主導で官民一体の開催となり、他に誇れる地域活動と認識しています。

20 年の活動を通して、これまでいろいろな漂着ごみの回収方法を考案試行し、ほぼ断念せざるをえなかったことや、海上輸送からバケツリレーに変更実施した際の混乱を思い出すと、よく皆さん協力しこれまでやってくれたと感慨深いです。

弊社では社長方針に「環境保全活動で地域社会の発展に貢献する」という言葉があります。そのとおり、この飛島クリーンアップ作戦への協力は、その行動の一つであり、これまで長年、弊社の事業活動でお世話になった飛島地域への恩返しとも思っていますので、今後とも継続して当該活動への協力ができることを強く希望しています。

株式会社みなと 専務取締役 笹村 司

飛島全図と活動の記録

酒田市の北西方向に 39km に位置する周囲 10.2km の小さな島。勝浦、中村、法木の 3つの集落があり、113世帯、175人が暮らしている。（令和3年10月）

周囲を優勢な暖流（対馬暖流）が流れているため、県最北に位置するにもかかわらず、年平均気温は 12℃以上、とても暖かく積雪も少ない。

冬の間は、北西の季節風に晒され、まともに風を受ける西海岸には多量なごみが漂着する。

活動の詳細については別紙の年表を参照。



第 11 回（2011 / H23 年）山形県知事が参加



第 5 回（2005 / H17 年）田下は多量のごみに覆われていた



第 14 回（2014 / H27 年）大勢の参加が清掃活動に取り組む

飛島に流れ着くいろいろな海ごみ



熊本県菊池市泗水地域のごみ収集案内看板。直線距離で 1000km 以上離れた場所から、なぜ飛島に？



大きな冷蔵庫も流れ着く。粗大ごみは運び出しに苦勞する。



日本全国、国内外の地名や店名が記載された数々のライター。海を通して日本と世界が繋がっていることがわかる。



船舶用の救難信号や発煙筒も流れ着く。不適切に処理をすると、暴発したり、誤作動する事故につながるので要注意。



中身の入ったドラム缶も流れ着く。塗料や、油が海岸を汚している現場に幾度となく遭遇した。



海に流出した油（原油など）が、冷えると基石大にまとまりタールボールとして流れ着く。衣服や靴を汚すので、注意文書を配布したこともある。

参加者同士、島民との交流



閉会式では島民や参加者から温かいお礼の言葉が送られる。



2010年、10周年事業として島民を招いた音楽ライブを開催。



2013年、同年にオープンした島の「ミュージアム潤」が企画者となり、活動を振り返る写真展が開催された。



海上保安庁酒田海上保安部は、巡視船べにばなで参加。帰りは定期船とびしまと並走、放水で参加者を楽しませた。

活動の継続に関わる工夫

① 実行委員会の設置と島民の参画

人口減と高齢化が進む飛島での活動を支えていくため、多様な地域の関係者が連携して取り組める体制の構築を図った。第2回目からは、特定非営利活動（NPO）法人を中心に据えた実行委員会を設置し、事務局の運営費を予算措置した。また、島外からのボランティアに依存する形になることを避けるため、島民の参画機会の一つとして、島の食材を活かした「お弁当」と「汁物」づくりを組み入れた。



② 参加費の設定、実施経費負担の考え方

飛島でのボランティア活動には様々な費用が必要であることから、定期船の概ね片道料金に相当する2千円を参加者に負担いただいている。このことは、海洋プラスチックごみ問題に対する当事者意識を共有することにつながっている。なお、学生の参加費は低額に抑え、参加費で賄えない経費については民間からの協賛金を確保し、昼食の食材費は酒田市で予算措置するなど関係者で工夫し合っている。



③ 清掃マニュアルの作成 (他地域へのノウハウ提供)

実施10年目を迎えたあたりで、容易には解決できない海洋プラスチックごみ問題であることから、活動の継続性と拡散に向けた作業に取り組んだ。活動の実施に向けた準備や当日の運営ノウハウなど取りまとめた、クリーンアップ活動のマニュアル冊子を作成した。実行委員会のうち、とくに人事異動で担当者が変わる部署や他地域でのスタートアップにおいては有効なツールとなった。



④ バケツリレー（実施の難しさと工夫）

飛島では、海岸で回収したごみを搬出するためには二通りの方法がある。一つは、小型漁船に積んで島内の港まで運ぶ方法。しかしながら多少の波があると船が出せないため、多くの場合は標高差 50 メートルほどの崖道を運び上げていく。この際、200 名余りの人員でバケツリレーを組むが、人員の配置方法が難しい。そこで、ここ数年は立ち位置を示す印を付けたロープを張っている。人の誘導が容易となって重宝している。



⑤ 運搬ロボットの活用

コロナ禍の 2021 年の活動では、島民との接触も避けて実行委員会の関係者に限定した方法で実施した。少ない人員でバケツリレーによる回収ごみの搬出も難しい中、開発中の「運搬ロボット」を投入した。仙台電波工業高専、地元農機具メーカーが製作のロボットに加え、東京のベンチャー企業が実用化した手押し車の「ロボネコ」が活躍し、今後の活動での活用に期待が膨らんでいる。いずれも、合同会社とびしまによる「テックアイランド」構想の一環である。



⑥ 実行委員会の担い手

多様な主体で構成している実行委員会は、事務局を担う NPO 法人と経費を支出している山形県担当部署が中心となって運営してきた。複数の NPO 法人が持ち回りで実行委員長や事務局長役を担う。毎年 3 回ほどの実行委員会と必要に応じた事務局会議を開催し新たに生じる課題に対処してきた。東北公益文科大学は学生の参加を後押しするなど行政や NPO と違った役割を果たしている。得意分野が違う多様さが継続的な活動にとって重要な要素の一つといえる。



飛島田下海岸の変遷



第21回飛島クリーンアップ作戦 実行委員会

構成団体

飛島コミュニティ振興会 / とびしま未来協議会 / 東北公益文科大学地域共創センター / 海上保安庁酒田海上保安部
一般社団法人山形県産業資源循環協会 / 藻場再生研究クラブ / 鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会 / 合同会社とびしま
特定非営利活動法人美しい庄内 / 特定非営利活動法人パートナーシップオフィス / 山形県庄内総合支庁 / 酒田市

協賛

山形放送株式会社 / 公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会

協力

株式会社みなと / 公益社団法人東北海事広報協会 / TECH ISLAND

事務局

合同会社とびしま / 特定非営利活動法人パートナーシップオフィス
〒998-0859 山形県酒田市大町 13-1 (電話 : 0234-26-2381)